

日本語による
近代ギリシャ文学・語学文献目録（2）

高橋 りえこ
橋 孝 司

井浦 伊知郎

- (1991)「現代ギリシア語とアルバニア語の関係節における重叙表現の比較」
『プロピレア』3, pp.45-8.
(1992)「アルバニア語の補文構造－現代ギリシア語との比較の試み－」
『プロピレア』4, pp.56-61.

井上 浩一（監修）

- (1993)訳:M.カプラン『黄金のビザンティン帝国』創元社
(知の再発見双書28) Kaplan, M. *Tout l'or de Byzance*, 1991.

浮田 三郎

- (1980)「現代ギリシア語の否定接頭辞－特に $\acute{\alpha}$ -, $\acute{\alpha}\nu$ -, $\acute{\alpha}\nu\alpha$ - について－」
『広島大学文学部紀要』40, pp.280-97.
(1981)「現代ギリシア語の不定代名詞 $\tau\acute{\iota}\pi\omicron\tau\alpha$ と $\kappa\alpha\acute{\nu}\epsilon\nu\alpha\varsigma$ による否定表現」
『広島大学文学部紀要』41, pp.333-52.
(1982)「現代ギリシア語の付加疑問－特に英語の場合と比較して－」
『広島大学文学部紀要』42, pp.316-31.
(1988)「現代ギリシア文学散歩道」『不死鳥』27, pp.27-30. 広島大学レク
レーション委員会 ◆ I. ボレーミス「漁師」, A. カタクジノース「羊
の群れ」, Γ. セフェリス「転機」「遅く君は話していた」「否定」
「地獄の仲間」の訳を含む. I. Πολέμης, Ο φαράς, Α. Κατακουζηνός, Το
κοπάδι, Γ. Σεφέρης, Στροφή, Αργά μιλούσες, Άρνηση, Οι σύντροφοι
στον Άδη.
(1989)「現代ギリシア文学散歩道 二」『不死鳥』28, pp.1-6.
◆ Γ. Σεφερίς「悲しむ女」「自動車」「霧」「ある日の様子」「評

言」「ロケット」の訳を含む。Γ.Σεφέρης, *Η λυπημένη, Αυτοκίνητο, Fog, Το ύφος μιάς μέρας, Σχόλια, Ρουκέτα.*

小田 謙爾 (編)

(1993)『ビザンツ研究邦語文献目録』 ビザンツ研究者の集い

◆ビザンツの政治、経済、宗教、美術等に関する書籍・論文の目録。

河底 尚吾

(1993)「ギリシア文字と片かな」『日本ギリシャ協会会報』66, pp.3-5.

川原 拓雄

(1992)『現代ギリシア語辞典』 リーベル出版。

◆「週刊東興通信」1992年9月9日付に紹介記事。

(1993)「現代ギリシア語の『現在完了』 - その不思議な成立事情 - 」

『日本ギリシャ協会会報』64, pp.6-7.

木戸 雅子

(1981-88)「現代ギリシア語入門 - アルファからオメガまで - 」(第1課 ~ 第25課) 『日本ギリシャ協会会報』19-47.

古浦 敏生

(1991)「南イタリアにおけるギリシア語離島について」

『プロピレア』3, pp.90-1.

志田 信男

(1991)「セフェリスとカザンザキス」『プロピレア』3, pp.1-6.

高橋 りえこ

(1990)訳:A.ナーク 「『ジョヴァンニ』と『狂女』」

『エーゲ海学会誌』4, pp.34-48.

Náκου, Α. *Η κόλαση των παιδιών*, ΒΕΣΤΙΑΣ 1985.

(1991)「ギリシア語に翻訳された日本文学(1) - 永井荷風「雨瀟瀟」 - 」

『プロピレア』3, pp.84-7.

橋 孝司

(1991)訳：B.コンスタンディノス「屈従列伝」『プロピレア』3,pp.49-56.

Κωνσταντίνος, Β. *Βίοι Τπάλληλοι*.

(1992a)「現代ギリシャ語の補文標識について - 知覚動詞構文を中心として」
『ニダバ』21,pp.77-86.

(1992b)「ビザンツ英雄詩『ディゲニス・アクリティス』における人物の
Ekphraseis」『プロピレア』4,pp.32-48.

近松 明彦

(1991)「ERXOMEとPIJENO:橋氏へのコメントとして」

『プロピレア』3,pp.41-4.

中井 久夫

(1989)訳：O.エリティス「時は迅き鳥影」「アルバニア戦線に倒れた少尉に
ささげる悲歌」『木もれ陽』名谷書屋。◆「解題」を含む。

(1991)「私と現代ギリシャ文学」『プロピレア』3,pp.57-63.

(1992)「劇詩人としてのカヴァーフィス」『プロピレア』4,pp.62-6.

(1993)「現代ギリシア詩人の肖像 1-5」『ふらんす』白水社。

◆4月号 .pp.76-79. 6月号 .pp.93-96. 8月号 .pp.93-96. 10月号 .
pp.93-96. 12月号 .pp.97-100.

西村 六郎

(1988)訳：N.スボロノス『近代ギリシア史』白水社（文庫クセジュ691）。

Svoronos, N. *Histoire de la Grèce moderne*, 1980.

福田 千津子

(1990)『現代ギリシャ短編集』大学書林。◆以下の4作品（対訳）を収録。

A. サマラキス「求む、希望」Σαμαράκης, Α. *Ζητείται Ελπίς*.

Γ. プシハリス「イヤリング」Ψυχάρης, Γ. *Τα Σκουλαρίκια*.

Στ. ミリヴィリス「養女」Μυριβήλης, Στ. *Η Παρακόρη*.

Μ. カラガーツイス「臍物を持った男」

Καραγάτσης, Μ. *Ο άνθρωπος με το φλεμόνι*.

(1991)「<特集・世界の言語>現代ギリシャ語」『言語』5月号 .pp.56-57.

大修館書店。

(1993)「現代ギリシア語」『世界のことは小事典』（柴田武編）pp.154-157.

大修館書店。

(1994)訳：N.カザンザキス『キリストは再び十字架にかけられる』大学書林。
Καζαντζάκης, N. *Ο Χριστός ξανασταυρώνεται* .

三浦 正道

(1987)訳：K.パラマス「アナトリア」『新詩人』10月号。新詩人社。

Παλαμάς, K. *Ανατολή* .

◆以下、サラングリス「海の詩I」の翻訳までは、『新詩人』に「現代ギリシャの詩」として掲載。

(1992)K.バルナリス「アルキピアデス」1月号。「《善良な》人々」2-4月号。

Βάρναλης, K. *Αλκιβιάδης, Ο <καλός> λαός* .

K.パラマス「妻に」5月号。「ポプラの木」6月号。「ジブシーの娘」
「田園の農家」「気まぐれと本心」7月号。「一つの生活」「花嫁」
「お帰り」8月号。「提琴奏者バタリア頌」「二つの眼」9月号。「糸杉」
「かわいいアテネ娘」「出現」10月号。「鬼火」11月号。「おだやかな二つの眼」
「忘却の水を」「それは」12月号。

Παλαμάς, K. *Στη γυναίκα μου, Οι λεύκες, Η γύφτισσα, Τα καλύβια του βλάχου, Η φαντασία και η καρδιά, Μια ζωή, Η νιόπαντρη, Γυρισμός, Του βιολιτζή του Μπαταρία το εγκώμιο, Δυο μάτια, Το κυπαρίσσι, Γλυκά Αθηναία, Ο ερχομός, Βραδινή φωτιά, Δυο ματάκια γλυκόσκυφαν, Νερόν ήθελα νάπινα, Είτανε* .

(1993)K.パラマス「揺るぎなき大地」「ある冬の夜明け」「オリンピックの歌」1月号。「約束の指輪」2-3月号。「バラよ、ジャスミンよ」「生まれざる歌のかずかず」4月号。「ぼくの内部に」「ジャスミンの花」5月号。

Παλαμάς, K. *Η γη μας γη των αφθάρτων, Ο Ολυμπιακός ύμνος, το δαχτυλίδι του αρραβώνα, Τριαντάφυλλα και γιασεμιά!, Τραγούδια αγέννητα, Μέσα μου ανοίχτηκε, Τα γιασεμιά* .

A.シケリアノス「パラマス」6月号。Σικελιανός, A. Παλαμάς.

N.カバアジアス「モンsoon」7月号。Καββαδίας, N. Μουσσώνας.

K.パラマス「洪水」「百のことば7」「百のことば62」8月号。「感傷のささやき」「風刺の練習」9月号。

Παλαμάς, K. *Η πλήμμυρα, Εκατό φωνές 7, Εκατό φωνές 62, Τα παθητικά κρυφομιλήματα, Σατιρικά γυμνάσματα* .

Γ.サラングリス「月」「ぼくらは詩人ではない」「ぼくはまだ一滴の滴を流すことができなかつた」10月号。「K.P.カバアフィス」「空は

再び扉を」「天国を見てしまった」11月号。「海の詩Ⅰ」12月号。
Σαραντάρης, Γ. Σελήνη, Δεν είμαστε ποιητές, Ακόμα δε μπόρεσα να
χύσω ένα δάκρυ, Κ.Π.Καβάφης, Πάλι ο ουρανός ανοίγει εδώ την
πύλη, Έχω δει τον ουρανό, Ποιήματα της θάλασσας.

(1993)作者不詳「スグロース」「太陽の贈り物」「春が来た」『こだま』
4月号. 東葛文化社. Ανώνυμος, Ο σγουρός, Τα δώρα του ήλιου,
Έρθει η άνοιξη.

◆以下の四つの翻訳詩も『こだま』9月号に掲載.

(1993)Γ.ウイジイノス「お祈りをするわけ」、Στ.ボレツイス「秋」、B.カリ
ター「冬」、Στ.ボレツイス「春」、T.アグラス「かじ屋さん」.
Βιζυηνός, Γ. Γιατί προσεύχομαι, Μπολέτσης, Στ. Φθινόπωρο,
Άνοιξη, Καριτά, B. Χειμώνας, Άγρας, T. Ο Σιδεράς.

森安 達也

(1974)「ピザンチン文明の意味」『講座比較文学6 東西文明圏と文学』
pp.77-97, 東京大学出版会.

(1980)「ギリシャの民話」『バルカンの民話』直野敦・佐藤純一・森安達
也・住谷春也 共訳編, 恒文社. pp.9-123.

◆「名高いドラコス」「黄金の犬」「蛇と犬と猫」「ライオンと虎と
鷲」「3人の若者と3人の娘」「九羽の白鳥と美しいエレニ」「太
陽神と結婚した娘」「フィオレディノス」「継娘の話」「ラザロス
殿とドラコスたち」「親友」「イブノス王」「貧乏人と金持ち」「
ライオンと人間」「猫とねずみ」「王様には角がある」「ランビドナ」
「マラソンの塚」「イギリス人」「アクロポリスの娘たち」を収録。
Ο πολυφουμισμένος δράκος, Το χρυσό βεργί, Το φίδι, σκυλί και
η γάτα, Το λιοντάρι, το καπλάνι κι ο αιτός, Τα τρία παλικάρια
και τα τρία κορίτσια and other 15 folktales.

(1984)「ギリシャのなぞなぞ」『世界なぞなぞ大事典』柴田武・谷川俊太郎
・矢川澄子編, 大修館, pp.785-801.

(1982)「バルカン諸語における現代ギリシア語の位置」『バルカン諸言語に
おける言語圏現象の総合的研究』昭和57年度科学研究費研究成果
報告書, 東京大学教養学部.

(1990)「ギリシャの名づけ(特集・世界の名づけ)」『言語』3月号, 56-57.
大修館書店.

八木橋 正雄

- (1991)「現代ギリシャ語キプロス方言のアウトラインについて」
『プロピレア』4, pp.49-55.
- (1992)訳:A.トゥンプ『現代ギリシャ民衆口語ハンドブック』私家判。
Thumb, A. *Handbuch der neugriechischen Volkssprache.*

山川 偉也

- (1990)訳:O.エリティス「アクシオン・エステイ 第一部『創世紀』」
『桃山学院大学人間科学』創刊号。Ελύτης, O. *Το άξιον εστί.
Η Γένεσις.*
- (1991)訳:O.エリティス「アクシオン・エステイ 第三部『賛歌』」
『桃山学院大学人間科学』2号。Δοξαστικόν.
- (1992)訳:O.エリティス「アクシオン・エステイ 第二部『受難曲』第一」
『桃山学院大学人間科学』3号。Τα πάθη, Ψαλμός Α'-Ε'.
- (1993)訳:O.エリティス「アクシオン・エステイ 第二部『受難曲』第二」
『桃山学院大学人間科学』4号。Τα πάθη, Ψαλμός Ζ'-ΙΗ'.
- ◆以上はいずれも「翻訳・解題・語句注釈」からなる。
- (1994)訳:N.カザンツァキス「わが旅-日本-一九三五年」(「はじめに」~
「シンガポール」)『桃山学院大学人間科学』6号。
Καζαντζάκης, N. *Ταξιδεύοντας- Ιαπωνία- Κίνα.*

山口 喜雄

- (1989)「ギリシア人の名前について」『エーゲ海学会誌』3, pp.1-11.

和田 廣

- (1981)『ビザンツ帝国』教育社(教育社歴史新書)

渡辺 金一

- (1978)訳:H.G.ベック「社会を写し出す鏡としてのビザンツ文学」
『思想』12月号 pp.105-120. H.G.Beck, Die <gesellschaftliche
Relevanz> der byzantinischen Literatur.

本稿製作にあたっては数多くの方々(とりわけ、井浦伊知郎、中井久夫、野中夏実、福田千津子、三浦正道、山口喜雄の各氏)に御協力いただきました。ここに記して感謝致します。